

会 告

第 87 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和49年 1 月 21 日（月）

本会は第87回講演大会を昭和49年 4 月 2 日（火）、3 日（水）、4 日（木）の 3 日間日本大学生産工学部（千葉県習志野市泉町 1-2-1）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和49年 1 月 21 日（月）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
(設備技術、I Eなどに関する発表を歓迎いたします)
2. 講演時間 1 講演につき講演15分、討論 5分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等を必ず盛込んで下さい。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が 2 枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は鉄と鋼第59年第14号添付「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ、タイプ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（次ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（クリーム頁末つづり込み）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和49年 1 月 21 日（月）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社) 日 本 鉄 鋼 協 会 編集課

講演分類

製		鉄				製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製 鉄 基 礎	原 料 ・ 燃 料	高 炉 製 鉄	特 殊 製 鉄	フ ェ ロ ア ロ イ	製 鉄 耐 火 物	製 鋼 基 礎	溶 解 ・ 精 錬	造 塊	製 鋼 耐 火 物	塑 性 加 工	熱 処 理	表 面 処 理 ・ 防 食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄 造	粉 末 冶 金	溶 接	金 属 物 理	金 属 組 織	鋼 の 性 質	鉄 鋼 材 料	鑄 鉄 ・ 鑄 鋼	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 自 動 制 測 御	I E そ の 他 技 術	そ の 他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より 20 日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 95円, 20枚 215円, 40枚 375円
10枚 135円, 25枚 270円, 50枚 500円
15枚 190円, 30枚 295円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 編集課

会費納入についてのお願い

昭和 49 年分会費の納入期がまいりました。会費は毎年 12 月に 1 年分を前納するか、または毎年 12 月および 6 月の 2 回に分けて、おのおの 6 カ月分を前納していただくことになっておりますので、別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お払込下さい。

記

	会費年額	入会金
正会員	4000円	400円
学生会員	2000円	200円
外国会員	4500円	450円

宛先 100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人 日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

第 87 回 (春季) 講演大会討論会のお知らせ

昭和 48 年 4 月 2 日～4 日日本大学生産工学部において本会第 87 回講演大会討論会はそれぞれ下記のごとく決定いたしましたのでお知らせいたします。

本討論会概要は「鉄と鋼」第 69 年 2 号 (次号) に掲載し、講演に対する質問を公募いたします。

I 高炉燃焼帯の挙動 座長 館 充

- 討-1 高炉の燃焼帯に関する諸問題 新日鉄広畑 下村 泰人
 上記 討-1 基調講演につづいて次の小講演が行なわれます。また、小講演のほかコメントも数件準備されますが、当日参加者の自由なコメントを出して下さい。また、小講演のほかコメントも数件準備されますが、当日参加者の自由なコメントを出して下さい。
- 羽口前レースウェイクにおよぼす諸要因の検討 (住金) 羽田野 道 春他
 - レースウェイの形状とレースウェイ内のスラグの化学組成におよぼす高炉での高油吹込みの影響 (川鉄) 稲 谷 稔 宏他
 - モデル実験炉におけるレースウェイ形状の研究 (新日鉄) 近 藤 喜 一他
 - 羽口先燃焼帯の解析について (日本鋼管) 下 間 照 男他
 - 羽口先燃焼帯における 2, 3 の現象 (日本鋼管) 福 島 勤他

II 鉄鋼精錬における界面現象 座長 坂尾 弘

- 討-2 CaO-SiO₂ 系スラグ溶鉄界面を通しての Fe の移行に伴う接触角と界面張力の変化 九工大 工博 ○向井 楠宏・三重工 古河 洋文・九工大 院 土川 孝
- 討-3 溶鋼のスラグによる脱硫のさいに見られる界面現象について 阪大工 工博 荻野 和巳・○原 茂太
- 討-4 連鑄鑄型内における溶融フラックスへの固体アルミナの溶解機構 川鉄技研 ○中戸 参・理博 江見 俊彦・江島 彬夫
- 討-5 上吹転炉内スラグのフォーミング現象について 新日鉄生産技研 ○立川 正彬・工博 島田 道彦・石橋 政衛・白石 惟光

III 圧延材の矯正について 座長 戸沢 康寿

- 討-6 棒鋼の矯正太りについて 大同中研 ○斎藤 誠
- 討-7 形材のローラー矯正における圧下設定法の理論解析 新日鉄八幡技研 工博 中島 浩衛・矢崎 陽一・○松本 紘美・笹平 誠一
- 討-8 矯正機の支点数・支点配置が矯正作業に及ぼす影響について 東大生研 ○荒木甚一郎・宇部興産 山本 直道
- 討-9 ローラレベリング後の切断加工によるそり発生について 住金中研 工博 美坂 佳助・○益居 健
- 討-10 ローラレベラーによる熱延コイルの矯正 鋼管技研 上野 康・○藤田 米章

IV 鋼の強靱性 座長 田中 実

- 討-11 鋼材の脆性破壊試験法と溶接構造物の安全性評価の現状 新日鉄製品研 工博 金沢 正午・○三波 建市
 谷口 至良・工博 征矢 勇夫・工博 萩原 行人
- 討-12 テーパー形 DCB 試験の開発と Ni 添加鋼板の脆性破壊伝播停止特性について 住金中研 工博 長谷部茂雄・○川口 喜昭
- 討-13 高張力鋼の靱性におよぼす組織とその他の要因について 阪大工 ○工博 菊田 米男・工博 荒木 孝雄
- 討-14 400 級マルエージ鋼の組織と破壊靱性の関係 金材技研 ○工博 河部 義邦・工博 中沢 興三・宗木 政一

V 鉄その他 BCC 金属のクリープと格子欠陥 座長 橋口 隆吉

- 討-15 BCC 金属の高温クリープについて 鉄およびその合金を中心として 東北大工 工博 辛島 誠一
- 討-16 α-Fe の高温クリープにおける応力依存性 東北大工 ○工博 及川 洪・工博 辛島 誠一
 大同 飯久保知人・新日鉄 前田 正浩
- 討-17 α鉄および鉄-クロム合金の遷移クリープ特性 東北大金研 村田 威雄

昭和 49 年秋季 (第 88 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 49 年秋季 (第 88 回) 講演大会は 昭和 49 年 11 月 3 日, 4 日, 5 日の 3 日間近畿大学で開催されますが, そのさい開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 炉底侵食の機構と対策 座長 鈴木 駿一

高炉炉底侵食は高炉の寿命を決定する最も重要な因子であります, その機構, 対策にはまだ不明確な問題が残されています。

高炉炉底の侵食(レンガの変質, 侵食反応, 亀裂, その他) およびその対策(レンガ積構造, 材質および型, 炉底冷却方法, 操業, 侵食状況の推定, その他) について討論し, 今後の発展の足がかりとしたいと考えます。

2) 連鑄鑄片の品質と内部性状 座長 郡司 好喜

連続鑄造の技術は日一日と向上しほほ満足すべき水準に達したと考えられているが, 本質的な問題については不明な所がきわめて多いと言えよう。今回は, 連鑄々片の内部欠陥(中心偏析, 非金属介在物, 内部割れなど)の生成原因とその減少対策について討論会を開きます。基礎的な研究のみならず技術上の諸問題についての最近の研究結果を中心にして討論を行ない, 今後の発展に役立てたいと思っておりますので奮つて御応募下さい。

3) 鉄鋼の変形能 座長 田中英八郎

工業生産上重要な事項であるにもかかわらず, 従来主として経験の積み重ねで推移してきた「変形能」の問題も最近ようやく科学としてとりあげられるようになり, テストの結果の定量的応用もはじまっている。しかし, 問題の複雑さから, 評価法, 破壊の機構, 加工中の材料内部の状態などに関して多くの異なった立場があり, 種々の測定結果の現場的検証も必要とされている。これらの問題について, 力学的, 材料学的あるいは生産現場的立場から多面的な討論を期待する。

付 薄板の成形性についての討論も歓迎しますが, 今回はそれ以外の分野を中心にしたしたいと思います。

4) オーステナイト系ステンレス鋼の応力腐食割れの機構 座長 大谷南海男

応力腐食割れは最近問題になっている鉄鋼の環境脆化現象のなかでも, 特に工業的に重要な研究課題である。しかし, これに関係する因子は多岐にわたるので, 今回はオーステナイト系ステンレス鋼における割れの機構を中心に, つぎの諸点について討論を行ないたい: (1)材料側因子——割れ先端では何が起こっているか, つまり破壊力学的解釈, 塑性変形とアノード溶解との関係, (2)環境側因子——化学種の吸着・カソード反応・表面皮膜の性質, 形成と破壊の難易など。

5) 鉄鋼の靱性と転位論, その基礎と応用 座長 橋口 隆吉, 荒木 透

鉄鋼の固溶強化, 分類強化, 変態強化などの延性, 靱性, 破壊現象への影響の転位論的解釈に関する基礎と応用の総説と研究発表。定量的に扱えない複雑な材料の定性的な議論でもよい。

2. 申込締切日 昭和 49 年 2 月 26 日 (火)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙(クリーム頁末)に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は, 前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので, あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 49 年 5 月 31 日 (金)

討論講演として採用された方は, 本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内(表, 図, 写真を含め 6700 字)にタイプ(12ポ)印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ, ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 60 年第 9 号(昭和 49 年 8 月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 60 年第 10 号(9 月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 49 年 9 月下旬

前記第 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ, 質問対象講演を明記のうえ, 本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

第25回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— テーマ：最近の鋼管技術の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第25回西山記念技術講座を大阪ならびに東京で下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。本講座は、去る11月大阪で開催されたものと同内容のものです。

1. 期 日 昭和 49 年 3 月 5 日(火), 6 日(水)

2. 会 場 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0331)

3. 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~12:00	鋼管の用途の現状と将来	住友金属工業(株)	桑原 春樹君
	13:00~15:00	最近の鋼管成形加工における研究成果	大阪大学	加藤 健三君
	15:00~17:00	継目無鋼管の製造技術	住友金属工業(株)	小島 浩君
第 2 日	9:30~12:00	電気抵抗溶接鋼管および鍛接鋼管の製造技術	新日本製鉄(株)	志水 敏詮君
	13:00~15:30	大径溶接鋼管の製造技術	日本鋼管(株)	境 文四郎君

4. 講演内容

1) 鋼管の用途の現状と将来 桑原 春樹君

わが国の鋼管生産量は 1970 年に米国を凌ぎソ連について世界第 2 位を占めるに至った。その生産の伸びは、特に溶接鋼管において著しい。これら鋼管の用途は、極めて多岐にわたっているが大別すると物を輸送することを目的とする配管用と管の内外で熱交換することを目的とする熱伝達用と構造用、その他に分類できる。鋼管の取引に使用される規格について概説し、主として主な用途の現状と将来について述べる。

2) 最近の鋼管成形加工における研究成果 加藤 健三君

鋼管製造技術としての成形加工については各種の方法があり、それぞれの特長を生かして生産に利用されている。そこで、継目無し鋼管および溶接鋼管の両分野にわたり、最近の研究成果について公表されたものを取り出して述べたい。

3) 継目無鋼管の製造技術 小島 浩君

継目無鋼管の用途はますます多岐にわたり、高級化の傾向にある。これは伴う製造技術も、ここ 4 半世紀の間に目覚ましい発展を遂げた。ここでは、その製造技術の概要と各種製造方式の特質を技術史的側面から述べ、さらに品質、生産性の向上や原価低減を主眼とした最近の進歩、発展を眺め、今後の方向を探らうとする。

4) 電気抵抗溶接鋼管および鍛接鋼管の製造技術 志水 敏詮君

電気抵抗溶接鋼管(電縫管)および鍛接鋼管の製管、精整の諸設備の進歩と、その溶接および鍛接部の検査法として著しい進歩を示した非破壊検査設備について述べた。鍛接管は主として一般の配管に使用されるが、電縫管は素材製造および製管技術の進歩により溶接部の信頼性が向上し、ラインパイプ、ボイラチューブなどの高級管まで使用分野が及んでいる。これについて概説したのち、最近注目されている表面処理についても述べた。

5) 大径溶接鋼管の製造技術 境 文四郎君

大径溶接鋼管(サブマージドアーク溶接鋼管)は近年エネルギー輸送用ラインパイプ、国土開発用大径厚肉パイル分野を中心にいちじるしい需要がみられる。使用分野の拡大によりその使用条件は一層厳しさが要求されてきている。

ここでは、代表的な製法(U.O.E およびスパイラル鋼管製造法など)について発展経過、技術的問題点および関連技術を紹介し、あわせて時代の脚光をあびている寒冷地ラインパイプの素材および製造技術の開発状況について述べる。

5. 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

6. テキスト代 2000 円

7. 問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館
TEL 03-279-6021

第 24・26 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— テーマ：構造用鋼の非金属介在物に関する諸問題 ——

主催 日本鉄鋼協会

第24・26回西山記念技術講座を九州ならびに東京で下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。

I 第 24 回 (九州地区)

1 期日 昭和49年2月26日(火), 27日(水)

2 会場 新日本製鉄(株)八幡製鉄所技術研究所講堂 (北九州市八幡区枝光1-1 TEL 093-671-0311)

II 第 26 回 (東京地区)

1 期日 昭和49年5月23日(木), 24日(金)

2 会場 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9階 TEL 03-279-0311)

III 演題ならびに講師

第1日	9:30~12:00	鋼塊内の酸化物系大型介在物について	新日本製鉄(株)	梶岡博幸
	13:00~15:00	介在物の防止, 除去対策	住友金属工業(株)	田上豊助
	15:00~17:00	鉄鋼の諸性質におよぼす非金属介在物の影響	(株)神戸製鋼所	成田貴一
第2日	9:30~12:00	鋼中硫化物とその減少対策	川崎製鉄(株)	江島彬夫
	13:00~15:00	硫化物系介在物と鋼の延性および靱性	日本鋼管(株)	小指軍夫
	15:00~17:00	鋼中介在物と疲労その他の性質	東京大学	荒木透

IV 講演内容

1 鋼塊内の酸化物系大型介在物について 梶岡博幸

鋼材品質や鋼材歩留に強く関係し、鋼塊の致命的欠陥の1つと考えられている酸化物系大型介在物の製鋼工程での挙動について、最近の研究成果をもとに概説した。特に、大型介在物の軽減防止対策の確立に資するため、大型介在物の鋼塊内での分布状況を実用鋼塊の切断例により示し、それをもとに鋼塊内での介在物の分布を支配する要因や介在物の起源について詳述した。

2 介在物の防止, 除去対策 田上豊助

溶鋼の脱酸法、造塊時および連铸時の介在物の防止, 除去対策について概観する。脱酸は酸化介在物の質を左右するので、脱酸剤の種類, 添加量, 添加方法が重要となる。造塊, 連铸時の対策として空気酸化の防止, 耐火物, 被覆剤の混入防止, 铸型内の浮上分離の促進と、それを妨害するマッシュゾーンの生成などについて述べる。

3 鉄鋼の諸性質におよぼす非金属介在物の影響 成田貴一

鉄鋼中の非金属介在物と鋼の諸性質, とくにじん性, 疲労におよぼすその影響について、斯界の研究の概要を述べる。

4 鋼中硫化物とその減少対策 江島彬夫

鋼の凝固過程における硫化物の生成に関する基礎研究の結果と鋼塊および連铸铸片における硫化物の性状ならびにその分布についての観察を整理し、ついで、たとえば寒冷地向ラインパイプ材のように破面遷移温度, シェルフエネルギー, セパレーションなどに対しての要求がきびしい材料の製造に供する大型鋼塊の硫化物形態調整とそれに必要な製鋼条件, さらに、全般的に鋼中硫化物の減少対策について述べる。

5 硫化物系介在物と鋼の延性および靱性 小指軍夫

鋼中の MnS 介在物は延性を低下させ、また異方性の原因になる。ここではその実態を明らかにするとともに、クロス圧延, 介在物形状制御の効果, 破壊機構に関する最近の研究結果などにつき述べる。靱性については不明な点が多いが、現状の知識の要約を試みる。

6 鋼中介在物と疲労その他の性質 荒木透

鋼中の非金属介在物の疲れ性質に及ぼす影響をまず金属組織学的に解説し、硫化物, 酸化物, 鉛系介在物などの介在物の疲れ破壊特性への影響に関する従来の研究結果の展望綜括を行なう。続いて主として加工性被削性に対する介在物の役割りについての知見をマイクロ組織と延性の面からとりあげ解説を試みたい。

V 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

VI テキスト 2000 円

VII 問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 Tel. 03-279-6021

日本鉄鋼協会東海支部

湯川記念講演会のお知らせ

下記により湯川記念講演会を開催いたしますので多数御聴講下さいますよう御案内申し上げます。

記

日 時 昭和 49 年 1 月 30 日 (水) 13:30~15:00
 会 場 名古屋市中区 2 丁目 17 番 名古屋市立科学館ホール
 題 目 「原子力製鉄ならびに新エネルギーの技術開発について」
 講 師 通産省工業技術院 技術審議官 木 下 亨氏
 問い合わせ先 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部金属鉄鋼工学教室内
 日本鉄鋼協会東海支部

第 2 回「鋼における水素の挙動」

—遅れ破壊機構へのアプローチ—シンポジウム予稿集のお知らせ

鉄鋼基礎共同研究会、遅れ破壊部会、日本学術振興会、(日本金属学会、日本鉄鋼協会)主催で、昨年11月16日に大阪科学技術センターにて開催されました上記シンポジウムの予稿集ができておりますので、下記へ御申し込み下さい。

講演

高張力鋼の遅れ割れ現象とその解析
 拡散の立場から見た鋼中の水素の挙動

大阪大学 菊 田 米 男
 名古屋工業大学 ○浅 野 滋

遅れ破壊における腐食の役割
 水素脆性と破面形態
 遅れ破壊過程での割れの伝播及び形態

川崎製鉄 中 井 揚 一
 新日本製鉄 岡 田 秀 弥
 住友金属工業 寺 崎 富久長
 新日本製鉄 南 雲 道 彦

代 金 800 円 (送料必要なし) 書留にて

申 込 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会技術部気付 鉄鋼基礎共同研究会遅れ破壊部会事務局宛
 TEL (03) 279-6021 (代)

塑性加工と切削加工の力学的解析シンポジウム

日本金属学会主催：日本塑性加工学会、日本機械学会、日本鉄鋼協会、精機学会協賛

時：昭和49年2月5日(火) 10:00~15:30

所：学士会館分館(東京都文京区本郷 東大赤門わき 電話 03-814-5541)

座長 大 森 正 信

座長 木 原 諄 二

- 10:05 1. 塑性加工の力学への平面ひずみア
 プローチの寄与 横浜国大工 工藤英明
 10:45 2. 平圧延の力学と材料の力学的性質
 東大工 木原諄二
 11:25 3. 押出しと鍛造の力学と平面ひずみ
 アプローチ 東北大工 高橋裕男
 一屋 食一

- 13:00 4. 金属の切削加工の力学と平面ひずみ
 問題 東工大工 白井英治
 13:40 5. 土の切削の力学—土と金属との類比
 東大工 畑村洋太郎
 14:20 6. 塑性加工および切削加工における
 数理塑性学の役割り 名大工 戸沢康寿
 15:00 総合討論

前刷1部 300 円 (送料共)

申込先：980 仙台市大町1丁目 1-13 日本金属学会

第 12 回原子力総合シンポジウム開催案内

開催趣旨

原子力関連学協会の共同主催により、広範な原子力研究に関連した専門を異にする分野において、研究者一技術者間および産業界一学界間の、情報および知識の交流、普及を計るため、シンポジウムが開催されますので奮つて御参加下さい。

内 容

共催学協会提案の諸テーマの原案を基に、運営委員会で特別講演・総合講演・討論会などを企画・立案する。

「予稿集」(B 5判オフセット印刷)を2月上旬に作成し、実費(予価 500 円)頒布する。参加費は1人 500 円

と き 1974年2月18日(月)、19日(火)

と ころ 国立教育会館(千代田区霞が関 3-2-3 TEL 03-580-1251)
大会議室(6階) 中会議室(6階)

共同主催

日本原子力学会、日本鉄鋼協会、他 31 学協会

後 援

原子力委員会 日本学術会議 日本原子力研究所 動力炉・核燃料開発事業団 日本原子力船開発事業団
日本原子力産業会議

運 営

各共催学協会代表の委員で組織した「原子力総合シンポジウム」運営委員会が実施に当る。
(事務局：日本原子力学会内)

記

第 12 回原子力総合シンポジウム・プログラム

[1974 National Symposium on Atomic Energy, Tokyo, Japan]

2月18日(月)		(総合講演2) 原子力船関係
開会の辞	(運営委員長) 小沢 保知	座長(日立造船) 木下 昌雄
挨拶	(原子力学会会長) 宗像 英二	(講演5) 医療被曝の現状と問題点
特別講演 ウラン濃縮の現状		座長(放医研) 伊沢 正実
座長(原 研) 宗像 英二		2月19日(火)
	(原子力委員) 松井 明	(総合講演3) 原子炉の供用期間中検査
(講演1) エネルギー危機と原子力の役割		座長(東 大) 安藤 良夫
座長(北 大) 小沢 保知		(総合講演4) 保障措置の現況と問題点
	(エネルギー研) 向坂 正男	座長(原 研) 平田 実穂
(講演2) 原子力と水素利用エネルギー・システム		(総合講演5) 高速増殖炉の研究開発の現況
座長(東工大) 鈴木 弘茂		座長(東 大) 三島 良績
	(原 研) 村田 浩	(講演6) 原子炉炉心熱除去に関する最近の研究成果
(講演3) 原子力製鉄に関する研究開発		座長(京 大) 岐美 格
座長(原 研) 天野 昇		(総合講演6) 商用発電炉における原子力計測の動向
	(東 大) 松下 幸雄	座長(電総研) 井上弥治郎
(総合講演1) 核融合炉開発の原点と道筋		(総合講演7) 原子力における重イオンの役割
座長(東 大) 安 成弘		座長(学術会議) 伏見 康治
(講演4) 日米の原子力教育の現状について		(総合講演8) 強中性子源開発利用計画
(原子力工学教育日米セミナーより)		座長(阪 大) 吹田 徳雄
座長(北 大) 小沢 保知		
	(東 大) 山本 寛	

第 6 回真空科学国際会議・第 2 回固体表面国際会議

Preliminary Program の配布

上記国際会議は来る 1974 年 3 月 25~29 日、京都国際会館において開催されますが、このほど Preliminary Program ができましたので、入手御希望の方は下記にお申し込み下さい。

113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部物理工学科 富永五郎 TEL 03-812-2111 ext. 6272